

2011年12月13日
電子出版制作・流通協議会 事務局

2011年12月電流協セミナー報告

【開催概要】

- 第一部 電流協月例セミナー EPUB制作の現状報告
- 第二部 「外字・異体字に関するプロジェクトおよび実証実験」の説明

【日時】12月13日(火) 第一部 13時30分～15時、第二部 15時～16時30分

【セミナー題名、講演者】

第一部

- (1)EPUB制作の実際
想隆社 代表取締役 山本幸太郎氏
- (2)EPUBメディアが抱える課題
インプレス R&D 福浦一広氏

第二部

- 「外字・異体字に関するプロジェクトおよび実証実験」の説明
凸版印刷株式会社 情報コミュニケーション事業本部 田原恭二氏
凸版印刷株式会社 総合研究所 秋元良仁氏

【場所】日本教育会館 8階第二会議室 (160名定員)

【対象】電流協会員 (無料)

【運営体制】電流協事務局

【参加者】

第一部

事前申し込み総数 122名 当日出席者数 115名
・会員以外に、総務省3名、経産省1名、国会図書館2名、書協1名、電書協3名、デジタル機構(ポット出版)1名

第二部

事前申し込み 19名、当日出席者 32名

【配布物】

第一部

EPUB制作の実際(山本氏講演資料)

【講演概要】

第一部 (1) EPUB制作の実際

1. EPUBとは何か? IDPFの提唱する、国際的にオープンな電子書籍規格で、WEBの技術標準である、XHTML+CSSをベースとしている。

2 . EPUB の特徴・利点

- ・リフロー表現が可能で、文字の大きさ等をユーザーの好みで選択できる。
- ・テキストデータなので全文検索が可能
- ・メディアエンジンとの連携が可能



3 . EPUB を取り巻く環境

- ・Amazon の Kindle store など、電子書籍 store の入稿フォーマット。
- ・Apple が iBook store で正規なフォーマットとして採用。
- ・Google Edition でも EPUB を正式にサポート
- ・InDesign が対応
- ・EPUB3 からは、日本語縦書き、ルビ、縦中横などに対応
- ・版面固定 (Fixed Layout) への対応 (検討中)

4 . EPUB の実際

- ・リッチコンテンツの取り扱い
- ・従来の紙の場合は原則「版面」をベースにデザインや校正を行ってきたため、デザインや校正手順を制作者や発信者でどう共通認識をもつかが課題。

5 . 制作を取り巻く問題

- ・ビューア レンダリングエンジンや端末や OS、ブラウザなどによって表示が異なる。どれを基準として制作するかが問題
- ・EPUB の採用基準が一定化していないので、制作も「手作業」中心
- ・従来の出版制作の知識と作業工程の理解とともに、Web 技術やソフトウェア開発等の知識を持った人材が必要。

6 . EPUB の将来性

7 .

- ・TTS 機能付き EPUB 読み上げ機能、読み上げ時の文字情報との同期、ページの自動めくり機能。
- ・EPUB により出版物のアクセシビリティ機能の向上
- ・TTS 機能付き EPUB 制作フローについて

8. まとめ

- EPUB 3 の時代で、制作者は何をすべきか？
- Web, マルチメディアに強い人材の確保
- EPUB はじめ電子出版は発展途上。実装の現実についてアンテナをはる必要がある。
- 電子出版以外のコンテンツホルダーの確保。
- 新しい市場の発掘と育成。

第一部 (2) EPUB メディアが抱える課題 OnDeck 編集部 福浦一広氏

1. OnDeck の説明

- 2010 年 12 月創刊、EPUB 形式で発行、電子出版ビジネスの専門誌。



第一部 (2) セミナーの様子

2. EPUB とは

- Web ページをまとめたものが EPUB
- 縦書きをサポートしたものが EPUB 3
- EPUB が理解出来ない理由
 - 書籍でなくて Web ページだから
 - 横書きばかり見てきたから
 - コンテンツがないから
 - 作り方がわからないから

3. 制作するには？

- InDesign から EPUB は作成可能
但し、HTML と CSS の知識必要

- ・ EPUB 3 向けのオーサリングツールもあるが。
HTML と CSS の知識が必要
 - ・ 一太郎でも作成可能
- 4 . EPUB 3 の課題、記述指針の必要性
- ・ Basic
イーストの発表した EPUB 3 での日本語コンテンツ記述指針。レベル1 とレベル2 の2つを用意。
 - ・ EPUB 3 日本語ベーシック基準
AMD が発表した EPUB 3 での日本語コンテンツ記述指針
策定の中心はボイジャーとインフォシティ
 - ・ なぜ、記述指針が必要か？
ポイントは文書構造を明確にすること。
- 5 . まとめ
- ・ EPUB 3 は Web ページをまとめたもの
HTML の基礎知識が必要
 - ・ EPUB 3 の制作環境は未整備
汎用性を重視して選択を
 - ・ 日本語 EPUB3 の記述指針、現在はまだ参考程度に
 - ・ 文書構造をとらえることが EPUB 3 の近道
デザインに惑わされないように

第二部 「外字・異体字に関するプロジェクトおよび実証実験」の説明
～「字形共通基盤」プロトタイプによる実証実験のご紹介～
経産省委託事業「平成 22 年度書籍等デジタル化推進事業」
資料は電流協ホームページ <http://aebs.or.jp/>に掲載

- 1 . 経緯
- ・ 2010 年 8 月「三省デジ懇」 外字・異体字問題に関しても解決が必要と提起
 - ・ 2011 年 1-3 月「調査検討」 外字・異体字の利そうな利用方法に関し、調査検討を行い、進むべき方向性を定める
 - ・ 2011 年 4 月～2012 年 2 月「実証実験」 調査検討で定めた方向性を実証実験により検証し、平行して運用課題も検討する。
- 2 . 調査検討フェーズの調査項目
- ・ 漢字出現頻度数調査
 - ・ 問題点の切り分け
- 3 . 外字・異体字対応の方向性
- ・ 出版界で一般的に区別することが求められるグリフを収集整理して、共通インフラとして構築する（字形共通基盤）
 - ・ 具体的には、対象となるグリフに識別 ID（背番号）を付与してデータベース化し、管理運用する。

4. 字形共通基盤プロトタイプの紹介

- ・gi クライアント（利用者側）とインターネットを介して「字形共通基盤サーバ」（データベース）を連携

5. 実証実験の実施要項

- ・2011年10月28日～12月
- ・利用方法 Web サイトから、gi クライアントと利用マニュアルをダウンロードして利用（ジャストシステムの ATOK を利用 実証実験参加には同意書に同意が必要。）

